

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役社長 稲垣良次

2022. 8
No.348

イナテック社員の皆さんへ クリアコミュニケーションができていない。

- 「クリアコミュニケーション」とは、『事実に見合った適切な(文書)表現のこと』。つまり、可能な限り具体的な数値で伝達することです。(社長メッセージNo. 280参照)
- 最近の皆さんの会話や議論を聞いていると次のような「言葉」がよく出てきます。
- ・自分なりのレベルを上げます。
 - ・自分達なりには自己満足でスタートしました。
 - ・ちゃんと確認しました。
 - ・ちゃんとした状態にします。
 - ・きちつと、しっかりやります。
 - ・気づきを増やします。

これは7月12日に実施した工務課の2S点検時に出てきた「言葉」です。この工務課スタッフの皆さんの例は、今回たまたま書かせて頂いていただけで、イナテック全社で感じる事です。

つまり、「具体的な『数値』が一つもない」ということです。「いつまでに」「誰が」「何を」「どれだけ」「どのように」やるのか無責任な状態と言つていくくらいです。

ビジネス(仕事)としての会話の基本であり、主語・述語を明確にしないと何を言っているのかさっぱりわかりません。

最近では、私が意識的に聞き直していることを気づいてみえる方もいると思います(決して耳が遠い訳でもなく、補聴器も装着しています(笑))。

『数値化の鬼』安藤 広 大 著

この「クリアコミュニケーション」で私が悩んでいた時に出会った本です。

――(以下引用)

「言葉は過剰」

「数字は不足」の世の中

―人は、自分にとつて都合が悪いときに、曖昧な言い方をします。―

やましいことを隠すときに、私たちは、「たくさん」「ちよつとだけ」「かなり」という言葉を使いますし、既得権益を守るときにも感情的な言葉を多用します。

その場をうまくごまかすために「言葉」が進化したのかもしれないと思うほどです。

―世の中には「数字」が圧倒的に足りていません。―

それは、自分からデータを集めたり、数字の意味を分析したり、感情を横に置いて冷静に判断したりする必要があるからです。

つまり、「数値化」はめんどうくさい。だから、世の名は、「言葉」が溢れ返り、「数字」が足りていない状況になっているのです。

もつと「数字」を用いて論理的に考え、判断する人が増えれば、感情的な炎上や足の引つ張り合いは減ります。

「データのない不毛な会議」

「好き嫌いや空気の読み合い」

「認識の違いによる仕事上のエラー」

「今月は営業訪問をすごく頑張りました」
そう言っていたのに、実際には1日2件しか
回っていないようなときがあります。「すごく
頑張る」という言葉だけでは、お互いの認識
にズレが生じます。

その場合、何件回ったのか、数字も一緒にマ
ネジャーに報告させるなど、数値化するため
のルールを決めておく必要があります。

「数字のことはわかりうるさいな・・・」と思わ
れることを恐れ、確認を怠る管理職は、管理
職失格です。

この「言葉による言い逃れ」がクセになってし
まったプレーヤーは、そこで成長が止まりま
す。

イナテックも注意しないとこのような状態
に陥ります。

まだ間に合います。もう一度アイシンAW
(現 アイシン)様に教えていただいた「クリアコ
ミュニケーション」を実行しましょう。

菜根譚後集

七九

眞空不空、執相非眞、破相亦非眞。問、世尊如何發付。在世出世。狗欲是苦、絶欲亦是苦。聽吾
齊善自修持。

諸法の実相である眞空は、単なる空無ではない。現象に執着して、それを唯一の實在であると
するのも眞実ではなく、反対に現象を破邪して、それは全くの虚妄であるとするのも眞実ではな
い。しからば釈尊は、これについてどのように述べられているか。「世間にあつて出世間であれ」
と。物欲に捕らわれるのも苦であり、さればとて物欲を断ち切るのも苦である。そこが我々各自
の修養しだいである点である。

